

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	無期限（2000年5月2日設定）	
運用方針	主として、グロースマザーファンド受益証券に投資し、RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスをベンチマークとして、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。マザーファンド受益証券の組入比率は原則として高位を維持することとします。	
主要運用対象	ベビーファンド	グロースマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。このほか、当ファンドで直接投資することがあります。
	マザーファンド	わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーファンド	株式への実質投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
	マザーファンド	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」の適用対象です。

詳しくは販売会社にお問い合わせください。

## 運用報告書（全体版）

### 日本株スタイルセレクトオープン

愛称：ビッグ・ウィング・ワン

## 三菱UFJ スタイルセレクト・ グロースファンド

愛称：飛躍



第31期（決算日：2016年3月10日）



### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、お手持ちの「三菱UFJスタイルセレクト・グロースファンド（愛称：飛躍）」は、去る3月10日に第31期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



### 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目 12 番 1 号  
URL:<http://www.am.mufg.jp/>

本資料の記載内容に関するお問い合わせ先

お客様専用フリーダイヤル TEL. 0120-151034

(9:00~17:00、土・日・祝日・12月31日~1月3日を除く)

お客様のお取引内容につきましては、お取り扱いの販売会社にお尋ねください。

# ◆目次

## 三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンドのご報告

◇最近5期の運用実績	1
◇当期中の基準価額と市況等の推移	1
◇運用経過	2
◇今後の運用方針	6
◇1万口当たりの費用明細	7
◇売買及び取引の状況	7
◇株式売買比率	8
◇利害関係人との取引状況等	8
◇組入資産の明細	9
◇投資信託財産の構成	9
◇資産、負債、元本及び基準価額の状況	10
◇損益の状況	10
◇お知らせ	11

## マザーファンドのご報告

◇グロースマザーファンド	12
--------------	----

## 本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
	(分配落)	税込 分配	み 金騰 落	騰 落	中 率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
27期(2014年3月10日)	5,534	0	6.7	117.30	5.3	97.6	—	2,013
28期(2014年9月10日)	5,817	0	5.1	124.83	6.4	97.1	—	1,991
29期(2015年3月10日)	6,579	0	13.1	147.46	18.1	98.1	—	2,129
30期(2015年9月10日)	6,235	0	△ 5.2	140.20	△ 4.9	97.6	—	1,912
31期(2016年3月10日)	5,850	0	△ 6.2	134.83	△ 3.8	98.1	—	1,708

(注) RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、高修正PBR銘柄により構成されています。RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Russell Investmentsと野村証券株式会社が作成している株価指数で、当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はRussell Investmentsと野村証券株式会社に帰属します。また、Russell Investmentsと野村証券株式会社は、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株式組入比率	株式先物比率
	騰落率	騰落率				
(期首) 2015年9月10日	円	%		%	%	%
9月末	6,235	—	140.20	—	97.6	—
10月末	6,067	△ 2.7	134.34	△ 4.2	97.0	—
11月末	6,666	6.9	148.71	6.1	97.9	—
12月末	6,878	10.3	152.46	8.7	98.0	—
2016年1月末	6,714	7.7	149.85	6.9	97.6	—
2月末	6,209	△ 0.4	140.51	0.2	98.2	—
(期末) 2016年3月10日	5,619	△ 9.9	130.48	△ 6.9	98.2	—
	5,850	△ 6.2	134.83	△ 3.8	98.1	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

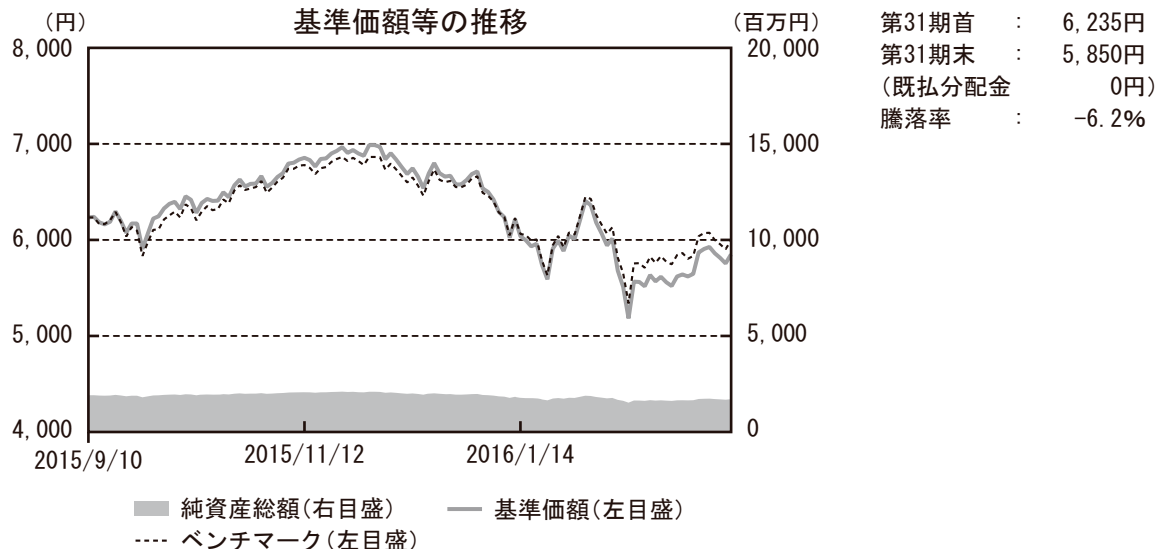
(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

## 運用経過

当期中の基準価額等の推移について

(第31期：2015/9/11～2016/3/10)

基準価額の動き	基準価額は期首に比べ6.2%の下落となりました。
ベンチマークとの差異	ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(-3.8%)を2.4%下回りました。



## 基準価額の変動要因

下落要因	中国経済の先行き不透明感が警戒されたことや米国の金融政策をめぐる不透明感などにより、国内株式市況が下落したことが、基準価額の下落要因となりました。
------	---

## 投資環境について

(第31期：2015/9/11～2016/3/10)

## ◎国内株式市況

- ・期首から2015年11月下旬にかけては、中国を中心とする世界経済への過度な警戒感が和らいだことに加えて米国の12月利上げ観測が強まったことで外国為替市場で円安・ドル高が進行したことなどから、国内株式市況は上昇基調となりました。
- ・12月上旬から2016年2月中旬にかけては、中国経済の一層の減速懸念、原油価格下落による産油国経済・財政の悪化懸念、中東での地政学リスクのさらなる高まりなど多面的に不透明要因が強まったことで世界的にリスク回避の動きが急進し、国内株式市況も大きく下落しました。
- ・2月下旬から期末にかけては国内外の追加財政政策への期待などから、やや持ち直す展開となりました。

## 当該投資信託のポートフォリオについて

## &lt;三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド&gt;

- ・当ファンドは、グロースマザーファンド受益証券（以下、マザーファンド）を通じてわが国の株式に投資しています。株式実質組入比率は、運用の基本方針にしたがい概ね95%程度の高水準を維持しました。

## &lt;グロースマザーファンド&gt;

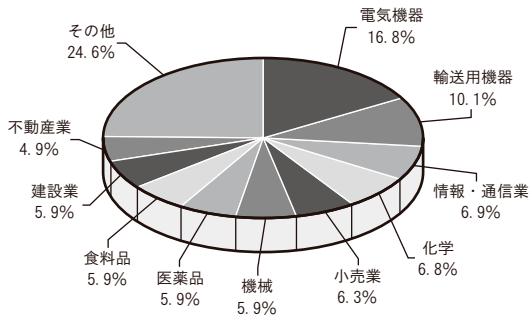
基準価額は期首に比べ5.3%の下落となりました。

- ・個別銘柄の選別においては、企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力などに注目し、将来の成長が期待できる企業を中心に投資を行いました。
- ・組入銘柄数は、概ね90～100銘柄程度で推移させました。業績が改善傾向にあると判断されたNTTドコモ、リチウムイオン電池用セパレータの需要拡大が期待されるダブル・スコープなど35銘柄程度を新規に組み入れました。一方でバリュエーション（投資価値基準）、業績動向などを勘案し、アステラス製薬、ファナックなど40銘柄程度を全株売却しました。

(ご参考)

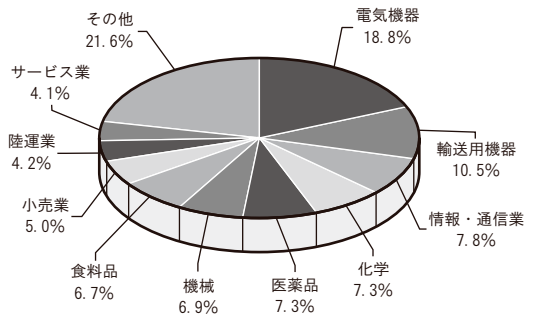
組入上位10業種

期首 (2015年9月10日)



(注) 比率は現物株式評価額に対する割合です。

期末 (2016年3月10日)



(注) 比率は現物株式評価額に対する割合です。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

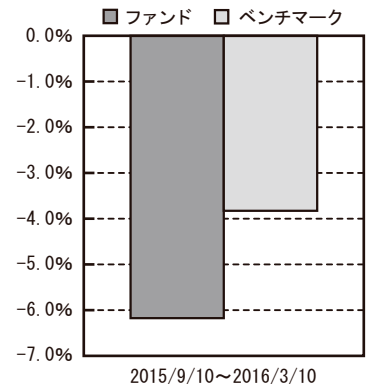
<三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド>

- ・ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率 (-3.8%) を2.4%下回りました。実質的な運用を行っているマザーファンドでベンチマークを1.5%下回ったことによるものです。

<グロースマザーファンド>

- ・ファンドの騰落率は、ベンチマーク (RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス) の騰落率 (-3.8%) を1.5%下回りました。
- ・業種配分効果については、非鉄金属や保険業をベンチマーク比オーバーウェイトとしていたことなどが影響しマイナスになりました。
- ・銘柄選択効果はジェイテクトや東ソーなどが影響してマイナスとなり、トータルでベンチマークを下回りました。

基準価額 (ペーパーファンド) とベンチマークの対比 (騰落率)



・特に、寄与、影響が大きかった銘柄は以下の通りです。

(プラス要因)

◎銘柄

・古河電気工業：2015年度上期業績が計画を上回る好決算だったことなどを評価し、期中よりベンチマーク比オーバーウェイトとしました。続く2015年度第3四半期決算でも順調な業績推移が確認され、株価は上昇しプラスに寄与しました。

(マイナス要因)

◎銘柄

・ジェイテクト：操舵性が高く、中大型車や自動運転への親和性の高い下流アシストタイプ電動パワーステアリングの需要拡大などに期待し、期中よりベンチマーク比オーバーウェイトとしました。外国為替市場において円高・ドル安が進行したことなどを背景に株価は下落し、マイナスに影響しました。

・東ソー：機能商品セグメントの中期的な成長力などに期待し、期首よりベンチマーク比オーバーウェイトとしました。中国経済をはじめ国内外景気の先行き不透明感が高まったことで株価が下落し、マイナスに影響しました。

## 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

### 【分配原資の内訳】

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第31期	
	2015年9月11日～2016年3月10日	
当期分配金	—	
(対基準価額比率)	—%	
当期の収益	—	
当期の収益以外	—	
翌期繰越分配対象額	435	

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。  
 (注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### <三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド>

#### ◎今後の運用方針

- ・今後もグロースマザーファンド受益証券を高位に組み入れる方針です。

### <グロースマザーファンド>

#### ◎運用環境の見通し

- ・日本経済は一旦踊り場的な調整局面を迎えたものの、①アベノミクスによる好循環が継続すること、②米国向けを中心に輸出が徐々に持ち直すと考えられることなどから、緩やかな回復軌道に回帰すると予想されます。加えて、自社株買いや増配など企業の株主還元を重視する姿勢が積極化していること、自動車や素材、石油元売りなどの業界で再編が進展していることなども株式市況のプラス要因になると考えられます。

#### ◎今後の運用方針

- ・株式の組入比率は、運用の基本方針にしたがい、引き続き高水準を維持する方針です。
- ・企業の中長期成長性が高いことを重視し、銘柄選定にあたっては、(1)新しい技術開発、(2)新興国向け事業の競争力、(3)企業買収や事業売却および戦略的投資の動向などに注目しています。株価変動によるバリュエーションの水準、中長期的な成長性や事業リスク、流動性などを考慮しながら組入比率の調整や新規銘柄への入れ替えを検討していく方針です。



## ○ 1万口当たりの費用明細

(2015年9月11日～2016年3月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 ( 投 信 会 社 ) ( 販 売 会 社 ) ( 受 託 会 社 )	円 58 (27) (27) ( 3 )	% 0.913 (0.430) (0.430) (0.054)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率× (期中の日数÷年間日数) ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価 ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料 ( 株 式 )	12 (12)	0.191 (0.191)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(c) そ の 他 費 用 ( 監 査 費 用 )	0 ( 0 )	0.001 (0.001)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	70	1.105	
期中の平均基準価額は、6,358円です。			

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○ 売買及び取引の状況

(2015年9月11日～2016年3月10日)

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
グロースマザーファンド	千口 2,255	千円 1,653	千口 136,039	千円 114,123

## ○株式売買比率

(2015年9月11日～2016年3月10日)

## 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
	グロースマザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	5,972,301千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	3,171,574千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.88

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

## ○利害関係人との取引状況等

(2015年9月11日～2016年3月10日)

## 利害関係人との取引状況

&lt;三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド&gt;

該当事項はございません。

&lt;グロースマザーファンド&gt;

区 分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$		うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$	
株式	百万円 816	% 28.7	百万円 3,127	百万円 630	% 20.1	

平均保有割合 58.7%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

## 利害関係人の発行する有価証券等

&lt;グロースマザーファンド&gt;

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
株式	百万円 45	百万円 -	百万円 61

### 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	3,628千円
うち利害関係人への支払額 (B)	847千円
(B) / (A)	23.4%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三菱UFJフィナンシャル・グループ、アコム、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

### ○組入資産の明細

(2016年3月10日現在)

#### 親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
グロースマザーファンド	2,358,030	2,224,246	1,704,217

マザーファンドの組入資産の明細につきましては、マザーファンド頁をご参照ください。

### ○投資信託財産の構成

(2016年3月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
グロースマザーファンド	1,704,217	98.6
コール・ローン等、その他	23,654	1.4
投資信託財産総額	1,727,871	100.0

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2016年3月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,727,871,048
コール・ローン等	21,116,081
グロースマザーファンド(評価額)	1,704,217,521
未収入金	2,537,446
(B) 負債	19,579,325
未払解約金	2,278,770
未払信託報酬	17,274,193
その他未払費用	26,362
(C) 純資産総額(A-B)	1,708,291,723
元本	2,920,027,895
次期繰越損益金	△1,211,736,172
(D) 受益権総口数	2,920,027,895口
1万口当たり基準価額(C/D)	5,850円

## &lt;注記事項&gt;

- ①期首元本額 3,067,871,785円  
 期中追加設定元本額 2,474,746円  
 期中一部解約元本額 150,318,636円  
 また、1口当たり純資産額は、期末0.5850円です。

②純資産総額が元本額を下回っており、その差額は1,211,736,172円です。

## ③分配金の計算過程

項 目	2015年9月11日～ 2016年3月10日
費用控除後の配当等収益額	-円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	-円
収益調整金額	242,804円
分配準備積立金額	126,895,010円
当ファンドの分配対象収益額	127,137,814円
1万口当たり収益分配対象額	435円
1万口当たり分配金額	-円
収益分配金金額	-円

## ○損益の状況 (2015年9月11日～2016年3月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	3,189
受取利息	3,189
(B) 有価証券売買損益	△ 95,056,001
売買益	7,604,779
売買損	△ 102,660,780
(C) 信託報酬等	△ 17,300,555
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 112,353,367
(E) 前期繰越損益金	△ 840,013,104
(F) 追加信託差損益金	△ 259,369,701
(配当等相当額)	( 242,357)
(売買損益相当額)	(△ 259,612,058)
(G) 計(D+E+F)	△1,211,736,172
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	△1,211,736,172
追加信託差損益金	△ 259,369,701
(配当等相当額)	( 242,804)
(売買損益相当額)	(△ 259,612,505)
分配準備積立金	126,895,010
繰越損益金	△1,079,261,481

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。  
 (注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。  
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

\*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<http://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

【お 知 ら せ】

- ①スイッチングに係る規定を削除し、信託約款に所要の変更を行いました。  
(2015年12月10日)
- ②2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315% (所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5% (法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。)) の税率が適用されます。

# グロースマザーファンド

## 《第31期》決算日2016年3月10日

[計算期間：2015年9月11日～2016年3月10日]

「グロースマザーファンド」は、3月10日に第31期の決算を行いました。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第31期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスをベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式の中から、将来の成長が期待できる銘柄に投資します。銘柄選定にあたっては、ファンドマネジャーおよび当社アナリストの企業訪問調査をベースにした、企業の定性評価（企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力等に注目します。）を重視します。株式の組入比率は原則として高位を維持することとします。
主要運用対象	わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。

### ○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	純 資 産 額
	期 騰 落	中 率	期 騰 落	中 率			
	円	%		%	%	%	百万円
27期(2014年3月10日)	6,989	7.6	117.30	5.3	97.7	—	3,273
28期(2014年9月10日)	7,414	6.1	124.83	6.4	97.3	—	3,249
29期(2015年3月10日)	8,463	14.1	147.46	18.1	98.3	—	3,707
30期(2015年9月10日)	8,093	△ 4.4	140.20	△ 4.9	97.8	—	3,358
31期(2016年3月10日)	7,662	△ 5.3	134.83	△ 3.8	98.3	—	2,858

(注) RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。  
RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、高修正PBR銘柄により構成されています。  
RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Russell Investmentsと野村證券株式会社が作成している株価指数で、当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はRussell Investmentsと野村證券株式会社に帰属します。また、Russell Investmentsと野村證券株式会社は、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
(期 首) 2015年9月10日	円	%		%	%	%
	8,093	—	140.20	—	97.8	—
9月末	7,883	△ 2.6	134.34	△4.2	97.2	—
10月末	8,676	7.2	148.71	6.1	98.2	—
11月末	8,966	10.8	152.46	8.7	98.2	—
12月末	8,765	8.3	149.85	6.9	97.8	—
2016年1月末	8,117	0.3	140.51	0.2	98.4	—
2月末	7,355	△ 9.1	130.48	△6.9	98.5	—
(期 末) 2016年3月10日						
	7,662	△ 5.3	134.83	△3.8	98.3	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

## ○運用経過

## ●当期中の基準価額等の推移について

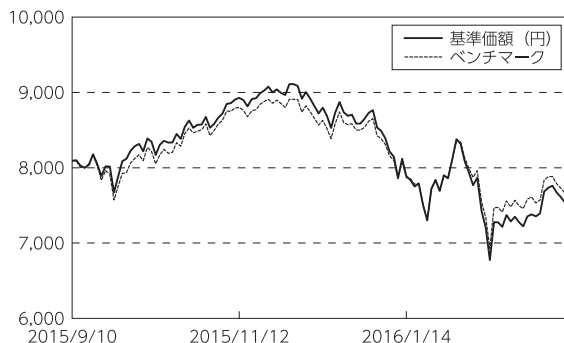
## ◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ5.3%の下落となりました。

## ◎ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(−3.8%)を1.5%下回りました。

基準価額の推移



(注) ベンチマークは期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

## ●投資環境について

## ◎国内株式市況

- ・期首から2015年11月下旬にかけては、中国を中心とする世界経済への過度な警戒感が和らいだことに加えて米国の12月利上げ観測が強まったことで外国為替市場で円安・ドル高が進行したことなどから、国内株式市況は上昇基調となりました。
- ・12月上旬から2016年2月中旬にかけては、中国経済の一層の減速懸念、原油価格下落による産油国経済・財政の悪化懸念、中東での地政学リスクのさらなる高まりなど多面的に不透明要因が強まったことで世界的にリスク回避の動きが急進し、国内株式市況も大きく下落しました。
- ・2月下旬から期末にかけては国内外の追加財政政策への期待などから、やや持ち直す展開となりました。

## ●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・個別銘柄の選別においては、企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力などに注目し、将来の成長が期待できる企業を中心に投資を行いました。

・組入銘柄数は、概ね90～100銘柄程度で推移させました。業績が改善傾向にあると判断されたNTTドコモ、リチウムイオン電池用セパレータの需要拡大が期待されるダブル・スコープなど35銘柄程度を新規に組み入れました。一方でバリュエーション（投資価値基準）、業績動向などを勘案し、アステラス製薬、ファナックなど40銘柄程度を全株売却しました。

●当該投資信託のベンチマークとの差異について  
ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（-3.8%）を1.5%下回りました。

・業種配分効果については、非鉄金属や保険業をベンチマーク比オーバーウェイト（投資比率を基準となる配分比率より多くすること）としていたことなどが影響しマイナスになりました。銘柄選択効果はジェイテクトや東ソーなどが影響してマイナスとなり、トータルでベンチマークを下回りました。

・特に、寄与、影響が大きかった銘柄は以下の通りです。

（プラス要因）

#### ◎銘柄

・古河電気工業：2015年度上期業績が計画を上回る好決算だったことなどを評価し、期中よりベンチマーク比オーバーウェイトとしました。続く2015年度第3四半期決算でも順調な業績推移が確認され、株価は上昇しプラスに寄与しました。

（マイナス要因）

#### ◎銘柄

・ジェイテクト：操舵性が高く、中大型車や自動運転への親和性の高い下流アシストタイプ電動パワーステアリングの需要拡大などに期待し、期中よりベンチマーク比オーバーウェイトとしました。外国為替市場において円高・ドル安が進行したことなどを背景に株価は下落し、マイナスに影響しました。

・東ソー：機能商品セグメントの中期的な成長力などに期待し、期首よりベンチマーク比オーバーウェイトとしました。中国経済をはじめ国内外景気の先行き不透明感が高まったことで株価が下落し、マイナスに影響しました。

### ○今後の運用方針

#### ◎運用環境の見通し

・日本経済は一旦踊り場的な調整局面を迎えたものの、①アベノミクスによる好循環が継続すること、②米国向けを中心に輸出が徐々に持ち直すと考えられることなどから、緩やかな回復軌道に回帰すると予想されます。加えて、自社株買いや増配など企業の株主還元を重視する姿勢が積極化していること、自動車や素材、石油売りなどの業界で再編が進展していることなども株式市況のプラス要因になると考えられます。

#### ◎今後の運用方針

・株式の組入比率は、運用の基本方針にしたがい、引き続き高水準を維持する方針です。

・企業の中長期成長性が高いことを重視し、銘柄選定にあたっては、（1）新しい技術開発、（2）新興国向け事業の競争力、（3）企業買収や事業売却および戦略的投資の動向などに注目しています。株価変動によるバリュエーションの水準、中長期的な成長性や事業リスク、流動性などを考慮しながら組入比率の調整や新規銘柄への入れ替えを検討していく方針です。



## ○1万口当たりの費用明細

(2015年9月11日～2016年3月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 ( 株 式 )	円 16 (16)	% 0.191 (0.191)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
合 計	16	0.191	
期中の平均基準価額は、8,293円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2015年9月11日～2016年3月10日)

## 株式

国 内	上場	買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
		千株	千円	千株	千円
		1,650	2,845,287	1,934	3,127,013
		( 34)	( -)		

(注) 金額は受渡代金。

(注) ( )内は株式分割・増資割当および合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

## ○株式売買比率

(2015年9月11日～2016年3月10日)

## 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	5,972,301千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	3,171,574千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.88

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

## ○利害関係人との取引状況等

(2015年9月11日～2016年3月10日)

## 利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$ %	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$ %
株式	百万円 2,845	百万円 816	28.7	百万円 3,127	百万円 630	20.1

## 利害関係人の発行する有価証券等

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
株式	百万円 45	百万円 -	百万円 61

## 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	6,173千円
うち利害関係人への支払額 (B)	1,444千円
(B) / (A)	23.4%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三菱UFJフィナンシャル・グループ、アコム、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

## ○組入資産の明細

(2016年3月10日現在)

## 国内株式

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
<b>鉱業 (1.0%)</b>				
国際石油開発帝石	13.5	—	—	—
<b>建設業 (3.4%)</b>				
大林組	81	38.9	41,428	
清水建設	68	61	55,693	
五洋建設	60.9	—	—	
<b>食料品 (6.7%)</b>				
江崎グリコ	—	2.8	16,128	
山崎製パン	—	6	13,764	
カルビー	4.2	6.6	30,426	
明治ホールディングス	4.4	6.3	56,385	
味の素	13	5	13,897	
キューピー	7	11.2	28,515	
アリアケジャパン	8.7	4.5	28,530	
日本たばこ産業	3.1	—	—	
<b>繊維製品 (1.5%)</b>				
東レ	43	44	41,624	
ワコールホールディングス	14	—	—	
<b>化学 (7.3%)</b>				
東ソー	110	98	46,550	
信越化学工業	2.3	—	—	
ステラ ケミファ	—	11.4	25,741	
ダイセル	—	17.1	25,119	
花王	4.9	9.6	55,900	
日本ペイントホールディングス	—	8.9	22,695	
富士フイルムホールディングス	4.2	—	—	
資生堂	—	6.5	16,149	
新田ゼラチン	41.5	—	—	
日東電工	4.1	—	—	
ニッポ	—	2.6	14,014	
ユニ・チャーム	17.1	—	—	
<b>医薬品 (7.3%)</b>				
協和発酵キリン	—	21.4	37,578	
アステラス製薬	46.5	—	—	
塩野義製薬	11.3	5.9	30,107	
田辺三菱製薬	—	14.6	28,820	
日本新薬	—	6.8	27,676	
中外製薬	4.5	11.8	41,359	
小野薬品工業	2.8	1.7	38,386	

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
<b>ゴム製品 (1.2%)</b>				
ブリヂストン	—	8.1	33,744	
<b>ガラス・土石製品 (0.2%)</b>				
フジインコーポレーテッド	—	3.5	4,753	
<b>鉄鋼 (0.5%)</b>				
日新製鋼	14.7	—	—	
日立金属	35.7	11	13,453	
<b>非鉄金属 (1.4%)</b>				
大阪チタニウムテクノロジーズ	3.4	—	—	
東邦チタニウム	23.4	—	—	
古河電気工業	—	146	38,690	
<b>金属製品 (0.4%)</b>				
SUMCO	—	16	12,784	
<b>機械 (6.9%)</b>				
アマダホールディングス	16	—	—	
中村超硬	—	8.6	42,742	
SMC	1.6	1.4	38,535	
小松製作所	5.9	23	44,505	
フロント産業	—	13.8	14,172	
TOWA	8	—	—	
クボタ	12	—	—	
アイチ コーポレーション	32.8	—	—	
ダイキン工業	2.3	2.1	16,917	
T P R	2.5	—	—	
ホシザキ電機	—	1.7	15,402	
ジェイテクト	—	13.9	22,114	
マキタ	2.1	—	—	
三菱重工業	58	—	—	
<b>電気機器 (18.8%)</b>				
日立製作所	80	21	10,852	
マブチモーター	—	4.8	25,392	
日本電産	8.4	8.2	67,084	
ダブル・スコープ	—	15.8	65,886	
パナソニック	—	7	6,865	
ソニー	12.1	11.3	31,001	
T D K	2.5	6.1	41,053	
アルプス電気	8.1	16.9	34,949	
キーエンス	1.2	1.2	71,124	
シスメックス	—	2.1	15,204	
フェローテック	29.9	—	—	

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
イリソ電子工業	2	—	—	—
山一電機	33.5	—	—	—
ファナック	3.1	—	—	—
ローム	3.2	—	—	—
村田製作所	5.7	7.7	110,148	—
小糸製作所	8	6.2	31,310	—
東京エレクトロン	—	2.3	16,796	—
<b>輸送用機器 (10.4%)</b>				
日産自動車	38.2	70.4	77,440	—
いすゞ自動車	9	—	—	—
トヨタ自動車	17.7	5.4	33,231	—
日野自動車	—	35.1	43,524	—
アイシン精機	—	9	40,455	—
富士重工業	18.4	19.4	78,162	—
ヤマハ発動機	29.7	11.5	20,987	—
<b>精密機器 (0.9%)</b>				
朝日インテック	—	4.9	25,235	—
松風	15	—	—	—
<b>陸運業 (4.2%)</b>				
東日本旅客鉄道	11.4	4.1	40,225	—
東海旅客鉄道	1.8	4	77,380	—
<b>情報・通信業 (7.8%)</b>				
GMOペイメントゲートウェイ	3.4	0.4	2,796	—
大塚商会	3.7	2.5	13,775	—
日本テレビホールディングス	16.9	—	—	—
KDD I	28.6	21.4	62,990	—
N T T ドコモ	—	27.2	69,632	—
GMOインターネット	8.7	—	—	—
S C S K	—	5.8	24,099	—
ソフトバンクグループ	8.7	7.9	45,282	—
<b>卸売業 (2.0%)</b>				
日本エム・ディ・エム	—	8.5	5,091	—
シークス	14.9	—	—	—
伊藤忠商事	—	16.6	23,704	—
日立ハイテクノロジーズ	2.6	2.5	8,012	—
ミスミグループ本社	13.5	12.6	20,160	—
<b>小売業 (5.0%)</b>				
J. フロント リテイリング	5.9	5.7	8,111	—
スタートトゥデイ	2	7.6	31,502	—

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
三越伊勢丹ホールディングス	8.5	—	—	—
ゴルフダイジェスト・オンライン	33.4	31.3	21,910	—
クスリのアオキ	4.4	—	—	—
良品計画	1.8	1.4	31,920	—
ドンキホーテホールディングス	3.8	—	—	—
ニトリホールディングス	4.4	3.5	32,760	—
ファーストリテイリング	0.4	0.4	13,612	—
<b>銀行業 (1.9%)</b>				
三菱UFJフィナンシャル・グループ	26	54.5	29,190	—
三井住友フィナンシャルグループ	—	3.4	11,934	—
スルガ銀行	7.7	7.2	13,759	—
<b>証券・商品先物取引業 (—%)</b>				
野村ホールディングス	36	—	—	—
<b>保険業 (1.7%)</b>				
アニコム ホールディングス	9.7	14.3	40,454	—
第一生命保険	28.7	5	6,960	—
<b>その他金融業 (2.5%)</b>				
イオンフィナンシャルサービス	10	—	—	—
アコム	—	60	32,580	—
オリックス	20.1	23.7	37,398	—
日本取引所グループ	6.1	—	—	—
<b>不動産業 (3.9%)</b>				
三井不動産	29	24	64,728	—
三菱地所	13	13	27,599	—
東京建物	25	12.2	17,226	—
<b>サービス業 (4.1%)</b>				
アイティメディア	6.4	—	—	—
テンブホールディングス	—	17.1	24,726	—
リニカル	—	15.1	26,440	—
エムスリー	7.6	5.1	13,851	—
リゾートトラスト	7.7	15.8	42,486	—
楽天	22.7	—	—	—
ファーストロジック	—	2.4	6,931	—
乃村工藝社	12.9	—	—	—
丹青社	42.3	—	—	—
合 計	株 数・金 額	1,603	1,354	2,810,236
	銘柄数<比率>	93	88	<98.3%>

(注) 銘柄欄の( )内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

## ○投資信託財産の構成

(2016年3月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	2,810,236	96.3
コール・ローン等、その他	108,586	3.7
投資信託財産総額	2,918,822	100.0

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2016年3月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	2,918,822,888
コール・ローン等	42,672,616
株式(評価額)	2,810,236,500
未収入金	61,984,622
未収配当金	3,929,150
(B) 負債	60,439,367
未払金	57,195,654
未払解約金	3,243,713
(C) 純資産総額(A-B)	2,858,383,521
元本	3,730,598,708
次期繰越損益金	△ 872,215,187
(D) 受益権総口数	3,730,598,708口
1万口当たり基準価額(C/D)	7,662円

## ○損益の状況 (2015年9月11日～2016年3月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	23,134,412
受取配当金	23,117,453
受取利息	16,699
その他収益金	260
(B) 有価証券売買損益	△193,122,208
売買益	215,088,624
売買損	△408,210,832
(C) 当期損益金(A+B)	△169,987,796
(D) 前期繰越損益金	△791,425,859
(E) 追加信託差損益金	△ 7,447,761
(F) 解約差損益金	96,646,229
(G) 計(C+D+E+F)	△872,215,187
次期繰越損益金(G)	△872,215,187

## &lt;注記事項&gt;

- ①期首元本額 4,150,307,759円  
 期中追加設定元本額 78,342,001円  
 期中一部解約元本額 498,051,052円  
 また、1口当たり純資産額は、期末0.7662円です。

## ②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド	2,224,246,308円
三菱UFJ スタイルセレクト・ブレンドファンド	1,506,352,400円
合計	3,730,598,708円

## ③純資産総額が元本額を下回っており、その差額は872,215,187円です。

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。  
 (注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。  
 (注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。